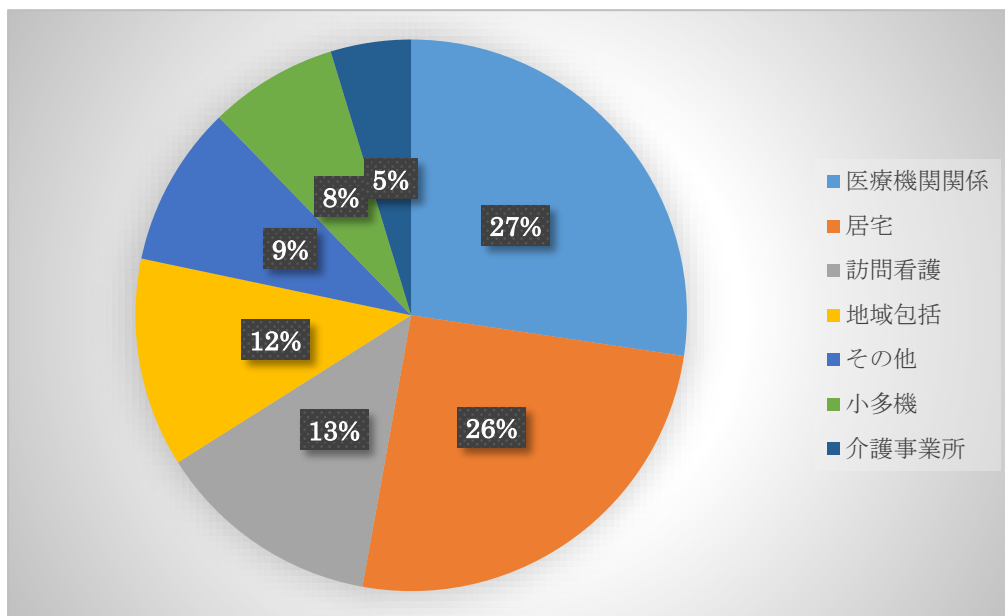


1、自主勉強会に来場された方の所属先（職種）について

参加者所属先						
医療機関関係	居宅	訪問看護	地域包括	その他	小多機	介護事業所
29	27	14	13	10	8	5



2、本日の自主勉強会について、当てはるところに○を付けて下さい。

① 『尾道市における看多機の実践事例』（18：40）

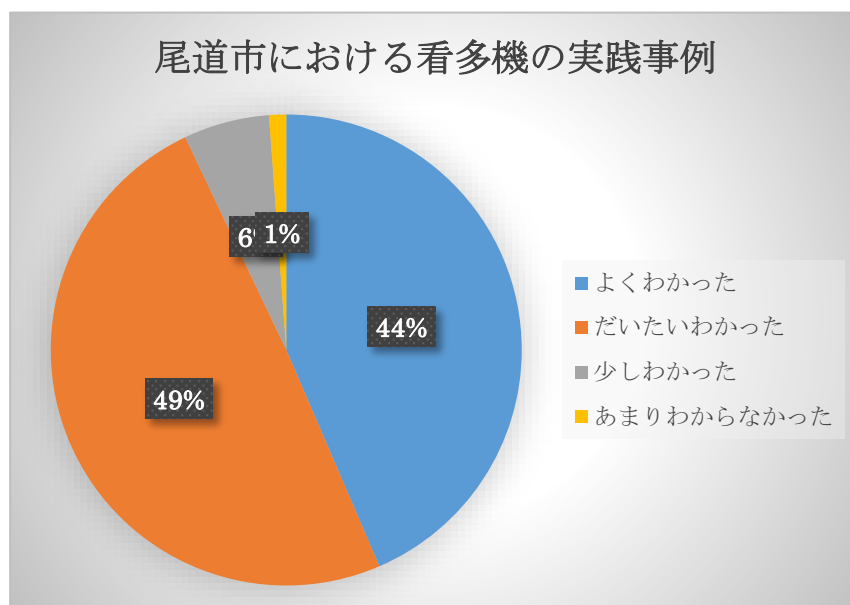
講師：（有）ブレイクスルー 代表取締役 相川 哲郎 様

テーマ： 看護小規模多機能が求められる理由などを説明

講師： 看多機 森のくまさん 管理者 佐古田 専美 様

テーマ： 尾道で実践されている先進的な事例紹介

よくわかった	37
だいたいわかった	42
少しわかった	5
あまりわからなかった	1



医療機関関係者からの意見

- 初めて看多機についての説明を聴き、感動しました。我々のような医療機関が周囲にはなく、居宅でも無理、施設でも無理という患者さんの選択肢として大切な機能だと思いました。
- 医療依存度の高い人が在宅で暮らすためには家族にとっても看多機は必要な事業所であることが事例を通じてわかった。質問にもあったように実際には課題や限界もあるのだろうが地域には必要であると思う。
- 「看多機」について事例を用いて説明していただき、すごく分かりやすかったです。
- 一つの事業所だからこそ深く多職種連携が可能なんだと思いました。
- 住民の方々の強い味方である施設だと感じました。病院で勤務する NS として反省すべき所、多々ありました。
- 尾道方式という用語を初めて知りました。
- 途中からでしたので分からない事も有りましたが、家族・介護職・看護職・ケアマネ等たくさんの方の力で患者様の生活をより良き日々になるように力を尽くされている事が良くわかりました。
- 本人さんとの関わりはもちろん、家族さんとの関わりや精神面のフォローが密にならなければ良い関わりは難しいと感じます。在宅での看取りができる環境が整いにくいことが多いです。介護する側の問題も多いですね。患者様から学ぶことは本当に多いと思います。
- 医療機器やベッド等福祉用具の移動・搬送が問題となりそうである。ショートステイを利用ごとに。
- 佐古田さんの熱い思いが伝わってきました。事業所内スタッフがより強い絆で繋がっているのがよくわかりました。

ケアマネジャーからの意見

- 患者さんや家族とどんな風に過ごし、医療者や家族がどんな気持ちで日々過ごされているのかがわかりました。
- やりがいのある仕事をされていると思った。
- スタッフの方の意識の高さに驚きました。やりがいを感じさせ、1つのチームとして意識を醸成させている素晴らしい看取りを実践していることが素晴らしいと思いました。
- 自宅があり、通うところが確保された環境の方が私の担当では少ないので、今までは利用したことがありません。これから勉強していきたいです。」
- やはり「看取り」が最終的なニーズであるということ。これが看多機の最も強みとなる分野なのだを再確認できた。
- 主治医がそれぞれの利用者で違うのであれば看護師は大変なのではないでしょうか。(安佐北区/CM)
- とても大変な取り組みをやりがいと自信をもって対応されている事に感動しました。どれだけの家族さん達を支えてこられた事か。すごいと思いました。
- 熱心に取り組まされておられるのがとても伝わってきました。
- 事例が具体的でわかりやすかった。難病の患者の受け入れ先が困難なのが実感できた。
- 管理者が誇りをもち、働いておられるのがよく伝わった。

地域包括からの意見

- もっともっと勉強して、日々の業務に繋げていきたいです。勉強になりました。
- 小規模多機能から、段階を追って看多機開始まで様々な苦労と情熱で築き上げてこられた姿勢に頭が下がります。看多機は訪問 NS としても懂れる部分が多いです。

その他の意見

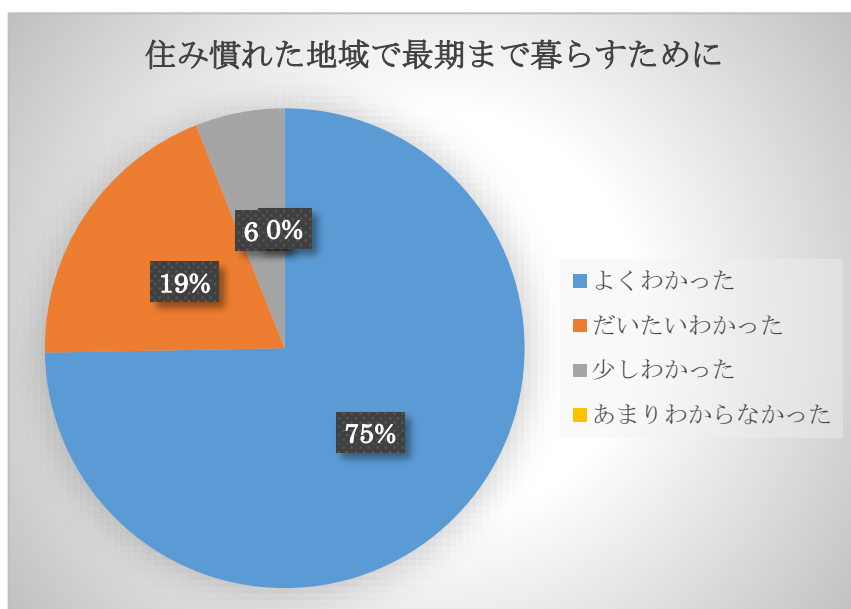
- 具体的エピソードを通じて、看多機のイメージがつかめました。
- 佐古田様のエネルギッシュな活動状況が伺えて大変勉強になりました。現在の小規模では、医療面が弱く吸引ひとつ夜間あるいは NS 不在の時に行えず、利用者様を受け入れできない状況です。介護だけでどこまでその方を診れるのか、限界を感じる事が度々あります。
- 病院でも大変な難病の方を在宅で支援する事の大切さ、心のケアもされているというか、共に支え合っているのかなという感じがしました。在宅を支えてくださるドクターの協力が大きくあり職員もご利用者・家族の方も安心出来るのかなと思います。連携できている施設だと思いました。
- 看取りの事例が多く多職種で相談・行動がしやすい所はいいなと思います。

②『住み慣れた地域で最期まで暮らすために』（19：50）

講師：やまぐちホームケアクリニック 院長 山口 剛 先生

テーマ：地域包括ケアにおける在宅医療と在宅介護の全体像について

よくわかった	62
だいたいわかった	16
少しわかった	5
あまりわからなかった	0



医療機関関係者からの意見

- 実際の在宅診療で可能な処置やケアがわかってよかった。
- 在宅診療におけるしぼりなど詳しく説明があり、現状の問題もよく理解できました。
- 在宅医次第なところはあると思うが在宅で行える医療の範囲が広いことに驚いた。一方で本当に患者さんや家族が安心して在宅で暮らすには課題も問題も多いと感じた。面の連携をスピード感をもって進めるにはどうすればいいのかと思って患者様、家族が笑顔で写真に写っているのが印象的であった。
- 制度そして具体的な事例や実際の医療等とてもわかりやすかったです。いくつも心に残るキーワードを頂くことができました。
- 簡潔で全体像がよく理解できました。
- “医療の出前”という言葉がとても印象的でした。たくさんの方の連携が必要だと学びました。
- 私はまだまだ勉強していく段階なのだと思います。家族さんとの不安をなくすことが難しいと考えていますが何かポイントはありますか。
- ありがとうございます。参考にさせていただきます。
- 地域リハビリテーションを今後活用していきたいと思います。訪問リハビリの立場として、安心できるような在宅が送れるよう連携をしっかりとっていきたいです。

ケアマネジャーからの意見

- 自宅で最期が迎えられない理由の多くの原因が、本人・介護者の気持ちに安心感がないことが原因ということを知っていて、確かに「気持ち」が一番重要なんだろうなと思いました。今もやはり利用者（患者）や家族にとって1番の支えはDrの言葉であることが多いと思うのでいい訪問Drが増えてほしいなと思いました。
- 在宅で看取る事ができたら、幸せだと思う。先生のような在宅医に出会いたいです。
- それぞれ一人の利用者・高齢者を在宅支援するにあたり、自らの役割チームアプローチとして自身の役割を担い実践していくことが重要だと感じました。QOLを維持できる関わりを行っていきたいです。
- 地域包括ケア・在宅診療共に過去で一番わかりやすい説明でした。ありがとうございます。
- 在宅診療で対応可能な医療処置・ケア・内容（水準）がわかり、参考になった。
- 在宅診療について、より深く理解できた。
- 私も住み慣れた地域で暮らしておられる担当利用者さんがいます。そのために、何が必要なのか何があれば最後まで全うして頂けるかと改めて考えながら拝聴しました。
- 先月、担当利用者が長年関わってくれた病院の主治医より「今後は往診をしてくれる医師に主治医を変えた方が良い」と告げられ、大変不安を抱えていたが、講義より在宅診療を行う医師の医療レベルの高さと志に感銘を受けた。改めて利用者に安心を伝えたい。
- 大変良くわかりました。地域性がよくわかりました。
- 本日は、先生のお話が聞けるということで参加しました。大変勉強になりました。
- 地域包括ケアシステムの今後の必要性について知ることが出来た。
- 医療の在り方がこれからどう変わっていくのか。病床を減らし在宅でどこまで対応できるのか不安です。
- 最近の在宅の看取りの話がくわしく聞けてよかった。グラフなど目で見てわかりやすい資料が多かった。
- つい先月まで往診していたのですが、往診側が「僕にはあなたの思う対応がとれないから」と主治医を連休直前になって拒否されてしまい、CMも本人家族も不安な思いをしました。医師による初回面談はとても大切だと思います。結局急遽主治医を変更しました。
- とてもわかりやすく理解することができました。

地域包括からの意見

- もっともっと勉強して、日々の業務に繋げていきたいです。勉強になりました。
- 先生が情熱を傾けて、取り組んでおられる事、とても心強く有り難く思いました。平成30年の改定で良い方に進むことを願っています。
- 専門職の安心感が大切であることがとてもよくわかりました。

その他所属意見

- これまであいまいにしか理解できなかった地域包括ケアが理解できました。在宅医療のすごさ、頼もしさを感じました。
- 生活目線で在宅医療ケアを考えることが重要だと理解できました。
- 本当に在宅で最期までという時、かかりつけドクターの関わりがないと困難です。小規模では大切な最期に看取れず移動して頂くというとても残念な思いをしています。山口先生の熱心な思いを他のドクターにも伝えて頂き、在宅診療を支えて頂ければと思います。
- 山口先生にはお世話になっております。先生が在宅でできる医療の質をあげることによって在宅で過ごせる利用者が増えるということ、先生の考えがよくわかりました。
- 在宅診療を始めるにあたって先生の丁寧な説明や理解をして頂く安心感を大切にされているのがとてもよくわかりました。

3、看護小規模多機能について、期待することは何ですか。その他、ご質問やご要望あればお答え下さい。

医療機関関係者からの意見

- 経鼻栄養の受け入れは可能でしょうか。病院の看護の問題点をあげて頂きたいです。
- 特に医療機関からご紹介される利用者さんにおいて、医療現場に要望されることをどんどん発言して頂きたい。医療現場は生活する場から何を求められているか全て理解するのが乏しい状況にあります。
- 多様なニーズに応えられるところ。
- 逆に看多機より精神科病院へ期待すること、役割などを別の折にも」聞かせてもらえれば、と思いました。
- これからの必要性を感じました。安心して自宅ですごせることを学ぶ事ができました。
- 病院では病院の主治医の治療方針に従ってケアしている。在宅ケアに向けて調整が必要となってくる。それを在宅に移行してお願いすることもあるかと思う。前病院のケアを否定することではなく、個々の PT に応じたケアに変更してもらいたい。

ケアマネジャーからの意見

- 医療依存度が高い人でも、住み慣れた地域（自宅）で最期まで生活できることが一番良い。安佐南区にたくさんできると良いと思います。「負担限度額認定書」が適用されれば、最高に良いですね。
- 重度の患者と家族を支えていける施設であってほしい。
- 自宅に居るとき、通いサービスを受けているとき、泊りのサービスを受けているときにも変わらず同じ処遇を受けることができるのが一番安心に繋がるのではないかと期待しています。
- 本人・家族の希望や不安を取り除ける場の提供と期待します。
- レスパイト利用（安佐北区/CM)

地域包括からの意見

- 在宅と泊まりを組み合わせて安心できる医療・介護でプランが形成されていることに家族の立場に立っても心強いサービスだと思いました。これからも頑張ってください。

その他の所属意見

- 小規模ではできない看取りができる、癌末期の受け入れができるのがいいと思います。
- 当ステーションのように、1階に訪看ステーション+訪問ヘルパーステーション+2階～サ高住+定期巡回隣にデイサービスがあるのですが、それとどう違うのだらうと思いました。料金でしょうか。同じ川内にできるということもあり危機感を感じております。
- ショート・通所・訪問をうまく組み合わせ、その人がその人らしく過ごせる環境が提供できれば素晴らしいと思います。
- 同じ川内地区に個人的に気になっていた看多機が開所されることを楽しみにしております。在宅の限界点をあげていく取り組み（実際に何をどのようにして上げていくか）にはとても共感しております。内覧会ぜひとも行かせて頂きたいと思っております。